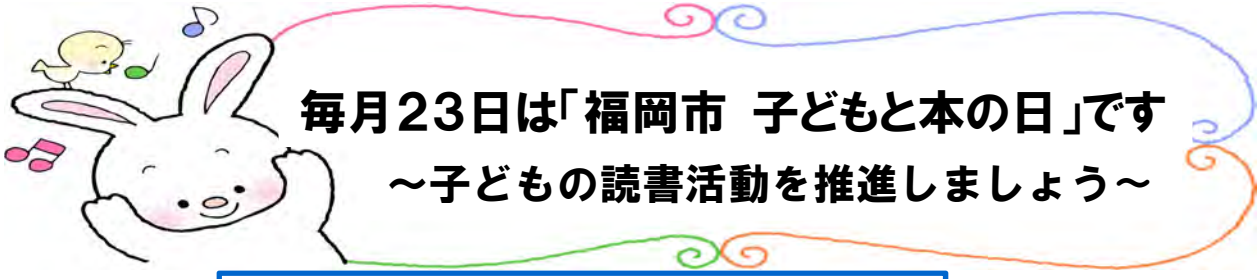
☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．２０３　　令和４年２月２３日



本の世界を楽しめる図書館に

文部科学省は、学校図書館の機能・役割として「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能の発揮を通して、「学校教育の中核」たる役割を果たすよう期待されている、と示しています。

具体的には「読書センター」の機能として、児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心を育む、自由な読書活動や読書指導の場であること、また「学習・情報センター」の機能として、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、情報の収集・選択・活用能力を育成する場であることとしています。

上記のことを考え、学校図書館が子どもたちに自由に本を選んで読む経験をさせたり、読書に親しむきっかけを与えたり、静かに読みふける場を提供したり、様々な本を紹介して読書の楽しさを伝える場であるか、さまざまな角度から考えてみましょう。

図書館に来て、読みたい本を見つけ、リラックススペースに行き、本を広げて読んでいる子どもたちの顔は、創造（想像）の世界を満喫しているとても良い顔です。そんな顔がたくさん見られる図書館を目指したいものです。

※リラックススペースとは、丸いテーブル、一人がけの椅子、ベンチ、畳を活用したスペースなど･･･。
本の世界を楽しむことができるリラックススできる場

☆見直す視点の例

蔵書構成→文学や漫画などに偏らないバランスのとれたものになっている。

配架の仕方→書架内の配列は左から右へ、番号の若いものから並べ、自然に番号が追えるように配置されている。

別置・特設コーナー→授業での利用や学校独自の取り組みなどに対応するために特定の種類の資料の別置や、季節や時事ニュース関連のコーナーがある。

分類・レイアウトとサイン→その場所に何があるかひと目でわかるような読みやすい字体、大きさ、色で表示している。

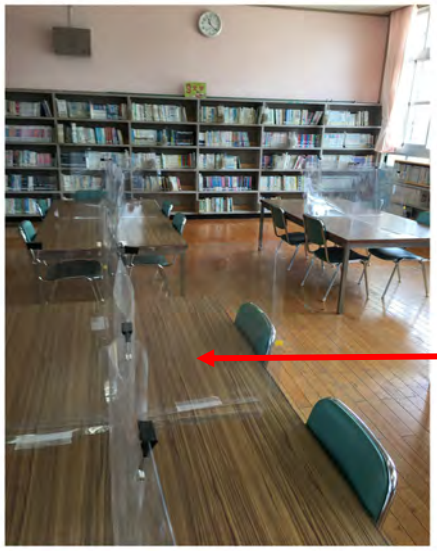
机・椅子の配置→安全面を考えた配置、また、リラックスできる配置がある。など

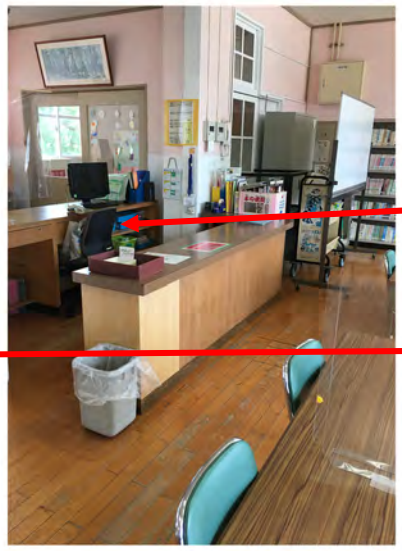
Hello！学校図書館　大楠小学校

南区の大楠小学校を訪問しました。大楠小学校は、児童数392人の学校です。学校名の通り、大きな楠の木と、校長先生の笑顔に迎えてもらい、図書館まで案内していただきました。さまざまな場所の掃除が行き届いていて、木の廊下が懐かしく感じました。

図書館も明るく、大変きれいに配架してあり、別置・特設のコーナーがたくさんある、魅力的な図書館でした。

安全面を考えた工夫





図書館に入った瞬間、全ての掲示が美しく、カウンター周りもすっきりとしていると感じました。また、コロナ感染対策きちんと取られていました。

読みたい本を探しやすい工夫

日本十進分類法の説明がしてあり、各書架には、分類番号とわかりやすいカードがありました。図書館で調べるヒントの掲示物もあり、子どもたちが本を探しやすい工夫がされていました。

さまざまなコーナーの工夫

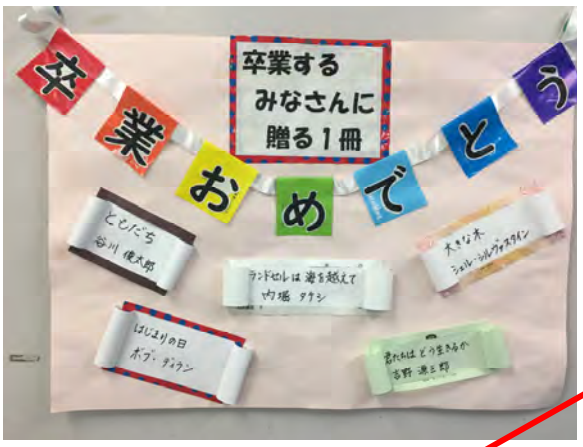
たくさんのコーナーがあり、また掲示の仕方も美しく、「この本読んでみたいな。」という子どもたちの声が聞こえてくるようでした。

いやしのコーナーの工夫

季節を意識したかわいい いやしのコーナーがありました。思わず手に取って読みたくなる子も多いことでしょう。

本の帯を使った２月の掲示・展示

「卒業」という言葉が聞こえてくる季節です。図書館からも、「おめでとう」の気持ちを伝える掲示をしましょう。卒業前は、わくわくだけでなく、なんだか不安になることも・・・そんな時、背中を押してくれるような本を読んでほしいものです。



卒業する子どもたちに読んでほしい本を紹介しましょう。（学校図書館にある本）
本の帯の両側を丸めた紙に先生方や学校司書の先生に本の題名を書いてもらい、図書館に掲示しましょう。新しい世界に向かう勇気をもらうことでしょう。

卒業する子どもたちに図書館を漢字一文字で表してもらいましょう。記入する紙は掲示することを考えて、ハートや本の形などにしておくと良いでしょう。また、マジックも準備しておきましょう。子どもたちはどんな漢字一文字で表すでしょう。

ハートを使った掲示物です。図書館がぱっと明るくなります。総合図書館団体貸し出しの入り口にも掲示してみました。

虎年にちなみ、「虎」を含む故事・ことわざを書いたしおりを作ってみました。図書委員会の子たちと作ってみてはどうでしょう。

帯の紙はこしがあり、しっかりとしています。花作り、しおり作りなどに適しています。

3月生まれの文学者

宮川　ひろと「春駒のうた」

1923年3月15日　群馬県　生まれ　2018年没

宮川氏は、利根川水源に近い山奥の１年の半分は雪におおわれているような小さな集落で育ち、本も読まず昔話にも出会いませんでした。宮川氏が作品を書くようになったのは、坪田譲二氏（童話作家）の講演に参加したことがきっかけで、その後も坪田氏の講座や講演会、童話教室に参加しながら作品を書いていました。

「春駒のうた」は、青少年読書感想文全国コンクール課題図書にもなった宮川氏の初めての長編作品です。大西祐行氏の紹介で出版社から作品を依頼されると、各章ごとに綴った見事な執筆の作品を仕上げました。

学校を舞台に子ども、教員、家族のふれあいを温かな視線でとらえた宮川氏の作品は「おかあさんのつうしんぼ」「つばきじぞう」（新美南吉賞）「夜のかげぼうし」（赤い鳥文学賞）「桂子は風のなかで」（日本児童文学者協会賞）などあります。

石田　衣良と「5年3組　リョウタ組」

1960年３月28日　東京都生まれ

石田氏は、小学校　2　年の頃から朝、図書館から借りた本を夕方返しに行き、また別の本を借りるということを毎日繰り返し、7歳の時には既に作家になりたいという気持ちがあり、小学校の卒業文集にも、自分で書いたもので人を楽しませたいと「作家になりたい」と書いたそうです。30代半ばになり、子どもの頃あこがれていた小説をゆっくり書いてみようと思っていたときに、たまたま目にした雑誌の星占いに背中を押されたのがきっかけで、1　日　2　時間働いて、あとは小説を書いたそうです。

「5　年　3　組　リョウタ組」は、現代の教育問題が全部入った愉快な若い教員の物語が書きたい、日々悩みながら教育現場に立つ「普通」の教員の目線で書きたいという意図で始まった石田氏初めての新聞連載作品で、連日原稿用紙2.5枚ずつを半年以上書き続けたそうです。

石田氏の作品は、「4TEEN」(直木賞)「6TEEN」「約束」「下北サンデーズ」などがあります。

【あとがき】 新型コロナウイルスが猛威をふるっている中、本年度も　3　月を迎えます。学校現場は安全対策に追われていらっしゃることと思います。お疲れ様です。先生や友達との距離を取らなくてはならない、マスクで表情もわかりにくいなど、子どもたちの心の成長を考えると心配なことがたくさんあります。そんな今こそ読書が子どもたちの心を育ててくれる一つになるのではと思います。ぜひ、子どもたちの身近に本を置いてください。学校図書館、公共図書館には子どもたちの心をほっこりとさせる本がたくさんあります。　（足立）

今月はフードバンクを利用する母娘を描いた絵本をご紹介します。

『きょうはおかねがないひ』
ケイト・ミルナー／さく　こでら あつこ／やく　合同出版　２０２０年　￥1600（税別）
＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年★☆☆　小中学年★★★　小高学年★★☆　中学生★☆☆
高校☆☆☆　一般☆☆☆
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）
＜本の紹介＞
お金がない日はお母さんとフードバンクに行く女の子のお話です。
フードバンクでは、ビスケットと甘いジュースがもらえるし、親切な人たちが持ってきてくれたものがもらえます。でも、女の子の好きなシリアルはありません。
帰り道で、女の子はお母さんと「いつかきっとごっこ」をします。いつかきっと、心配しないで毎日が暮らせて、猫が飼える生活がくることを信じて。

＜子どもに手渡す時のポイント＞
巻末には一般社団法人全国フードバンク推進協議会の解説がついているので、フードバンクについてより知りたい子には、そのページを紹介するとよいと思います。
ＳＤＧｓの目標に「飢餓をゼロに」とあるように、現代社会における世界的な課題を描いていますが、主人公は愛情に包まれ、明るく希望に満ちており、悲観的になることのない絵本です。
ＳＤＧｓを学ぶ機会などに、導入として読み聞かせをするのもよいかもしれません。
イギリスの優れた絵本画家に贈られるケイトグリーナウェイ賞の候補に選ばれています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発　行：福岡市教育委員会
総合図書館 図書サービス課
電　話：０９２－ ８５２－ ０６３９
ＦＡＸ：０９２－ ８５２－ ０８０１